

せいろうまち せ 聖籠町

議会だより



伝統ある聖籠町親善剣道大会

VOL.
81
平成20年1月18日発行

12月定例会 主な質疑 3～6ページ

8議員が一般質問 10ページ

日曜議会傍聴アンケート 19ページ

国民健康保険税 年金から特別徴収 (対象者 65歳以上75歳未満)

12月定例会

平成19年第4回定例会は、12月9日から13日までの5日間で開かれました。
町長から行政報告があり、聖籠町職員への給与に関する条例と聖籠町国民健康保険条例の一部改正、監査委員及び固定資産評価審査委員の選任について同意2件など計11議案を、活発に審議し原案どおり可決しました。
また、請願2件、陳情3件を採択し、請願1件を継続審査、陳情1件を不採択とし、米価の安定対策を求める意見書など5件を可決しました。
一般質問では、8人の議員が、財政や農業振興、次世代育成支援などについて町政を質しました。

主な質疑

どうする

特別徴収の周知

健康保険法の一部が改正されることによって、平成20年4月から、国民健康保険税が年金から特別徴収されます。
65歳以上75歳未満の方が対象者です。
この議案については、賛成多数で可決しました。

中村恵美子議員 年額18万円以上の年金から、国民健康保険税が天引される状況になる。



▲体を動かし健康管理

今の保険税の分割支払や支払猶予などはどうなるのか。

年金からの特別徴収は、生活実態の現状を無視したものになっている。

年金から保険税が徴収されることを知らせるためにどのようなことを考えているか。

老人クラブなどに 出向く

町民課長 特別な事情をもっている人には、個別に相談を受ける。

しかし、基本的に、年額18万円以上の年金から保険税を徴収する。
特別徴収の周知につい

ては、今後、広報に載せたり、各老人クラブの総会などに出向き、周知してもらおう。

反対討論

中村恵美子議員

聖籠町国民健康保険条例の一部を改正する条例について、一番納得できないことは年金から保険税が天引きされることである。
この国保の年金からの天引きは、生活状況によって、保険税の支払い猶予や分割での納付ができる現状にあるにもかかわらず、生活実態を無視した問答無用での天引きは容認できない。
以上の理由により、聖籠町国民健康保険税の一部を改正する条例については反対である。

賛成討論

五十嵐利栄議員

年金からの国民健康保険税の特別徴収は、国の法律改正によって、全国各地で行われるものである。
対応していくという答弁であった。
今後の行政対応を、しっかりとってもらうことを前提に賛成である。

反対討論の年額18万円以上の人に対する徴収方法については、特別な事情の人には、運用の中で

一般会計補正予算

障害福祉費（介護給付費等扶助費）

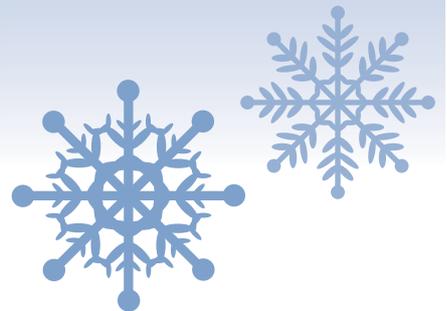
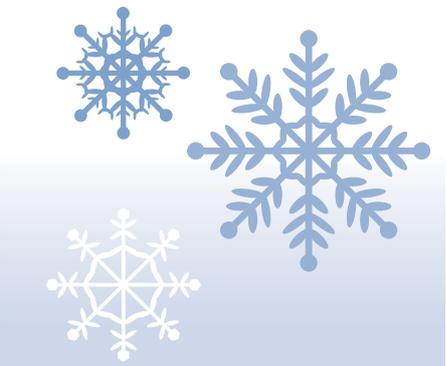
水田農業確立対策補助金

財政調整基金積立金

645万円

450万円

9600万円



平成19年一般会計の既定予算に5017万円を追加し、総額71億7835万円とするものです。

主なものは、障害福祉費（介護給付費等扶助費）645万円、水田農業確立対策補助金450万円、県道路事業等負担金（蓮野地区）600万円、小学校耐震診断業務委託料788万円減額、財政調整基金積立金9600万円などです。

主な質疑

適正な話し合い
されているか

五十嵐利栄議員

原油の

高騰で、ガソリンを含めた様々な補正予算が計上

されている。

ガソリン価格の場合、町内統一価格で契約されているが、12月から3月まで144円（税抜き）である。

しかし、今、現在は150円（税抜き）を越えている。

ている。

税金を使う町行政としては、安い設定はいいことなのだが、町内の民間業者にとっては、きびしい経営状況である。

町業者との適正な話し合いはされているか。

契約変更を 行っている

税務財政課長

当初、4月から3月までの契約価格は、年間通した価格だったが、原油高騰ということで、業界から要請を受けた。

要請の根拠をもとに、今までに契約変更を3回行っている。

各集落に配分する 考えないか

加藤正之議員

古紙回収した売却金179万円が計上されている。

他の自治体の例では、売却金を各集落に配分して、古紙回収の促進をしているところもある。

一考を要する

町長 提案の主旨は理解するが、まだ一考を要す

当町においても、資源活用の面からも、古紙回収の促進は大事である。今後、売却金を各集落に配分する考えはないか。



▲いつまで続く値上げ



▲分ければ資源、古紙回収



▲いつまでもお元気で

る。

基本的に、町民の生活の中で排出される一般廃棄物は、公費を投入して、予算化して、適切に処理されている。

町としては、全体的な考え方から、集落の区長に委託料を支払っている。今回、売却金収入があったが、過去には、町から支出して処分してもらったこともあった。

減額の理由は

手島八郎議員 網代浜海岸線背後地の調査委託料が、202万円減額計上されている。減額の理由は何か。計画の変更などがあったのか。

請け差である

ふるさと整備課長 実績上の請け差である。計画の変更はない。

長寿祝金の減額理由は

小川益一郎議員 長寿祝金が150万円減額されているが、この祝金は、対象者は何人と年度当初からわかつているはずである。減額の理由は何か。

祝金対象者17人減

保健福祉課長 当初予算では、対象者は146人であったが、9月1日付では、129人であった。

4月から8月までに、祝金対象者が17人減になったので減額した。

抜本的な整備が必要

小川益一郎議員 町のスポットとして、弁天潟及び周辺を整備しているが、新発田川放水路が掘削されたことなどで、地下水の流れが変わっている。このことなどで、弁天潟の水が浄化されず、ヘドロが蓄積している。町としては、予算をつけて、浄化する施設を設置しているが、ヘドロ除去は困難である。

弁天潟の再生のためには、浚せつ船を導入してヘドロ除去をするなど、抜本的に浄化する整備が必要である。

整備計画

まとめている

町長 地域住民の意向調査などをして、全体的な環境整備計画をしている。ヘドロ除去については、時期をみて、浚せつをするなど抜本的に考えている。

るなど抜本的に考えている。

ふるさと整備課長 水質対策としては、平成12年度に、弁天潟水質浄化対策を業務委託した結果、二本松用水を取水し、水車など設置した。

今後も、水質浄化のため、地域住民とともに、ハス・ひし刈りを計画したい。



▲浄化が急がれる弁天潟

主な質疑

内訳はどうなっているか

加藤正之議員

血液検査委託料183万円が計上されているが、内訳はどうなっているか。

これまでの実績から

保健福祉課長

これまでの実績から、血液検査を必要とする患者が見込まれるため、補正計上した。

どうなる薬の在庫

宮沢光子議員

診療所の医薬分業が始まって、数ヶ月たつが、利用者の声はどのようなものか。

薬は院外薬局からなので、診療所の薬購入費が2000万円減額された。

診療所に、今ある薬の在庫品はどうするのか。今後、診療所に、薬はおかないのか。

必要な薬は使う

保健福祉課長

当初、院外になったことで、2、3の苦情はあった。しかし、基本的にどこの薬局を利用していいので、便利になったと思う。

薬の在庫については、以前から棚卸しをこまめにして、必要なものを購入していた。

今後の医薬品については、医師の判断などで必要なものは購入する。



▲町民の健康を守る診療所

行政報告



渡邊町長

●「まちなか防災訓練」

●米の作況指数は下越北98

●特定健康診査、特定保健指導の義務付け

会で協議・決定後生産調整方式作成者から個々の農家に配分されることとなります。

▼教育行政について、聖籠町家庭・地域教育審議会の経過ですが、全体会が計2回、専門委員会は計4回、開催されています。1月に審議の中間報告を行うとともに、公開形式の審議会を予定しています。

▼国民健康保険事業について、平成20年4月からスタートする、特定健康診査、特定保健指導の義務付けに伴い、計画書の策定及び具体的な方向性を検討しています。

健診料は、40歳から69歳まで1000円、70歳以上を無料にしたいと検討しています。

▼10月14日、地域・住民主体型の「まちなか防災訓練」を行いました。

今回の訓練は、近年の

災害被害の状況を踏まえ、まず自らの身の安全を確保して、家族などの安否を確認するとともに情報収集する自助訓練、地域住民が助け合いながら避難する共助訓練など、地域共助の体制づくりを目的といたしました。

町としては、自助、共助の訓練を継続して行いながら、自主防災組織の設置を目指します。

▼10月29日公表の水稻の作況指数は、本町を含む下越北98で、県全体では100でした。

20年産米については、19年産米から市町村別需要量の情報提供という方式に変わっています。

水田農業確立推進協議

読者の声



五十嵐 小百合さん
(山 倉)

『文芸せいろ』の編集校正の仕事で、6年間させていただきました。

文章を読んだり、書いたり、特に漢字が苦手な私にとってこの6年間は、学びの時でした。仕事を通して自分の知らない時代を知る機会に恵まれ沢山のことを教わりました。お世話になった方々に感謝しています。

この12年間で、聖籠町も大きく変わりました。これからも、どんどん発展していくと思います。

しかし、今と変わることもなく町からの情報は、発信してほしいと思えます。そして、何年経っても、暮らしやすく、居心地の良い場所で、ずっと人に優しく温かい町であってほしいと願っています。

早いもので、新潟市から聖籠町へ引っ越してきて、12年目を迎えました。当時、聖籠町の印象は、田園風景の広がる自然豊かな所だと思いました。長男の入園をきっかけに、主人の実家へ同居することになり、聖籠町に友達もいなく(ここで、やって行けるだろうか?)と不安でした。でも主人の両親も温かく迎えてくれたので今日まで、楽しく暮らしてこれただけだと思っています。

こちらへ来て助かったことがありません。町からの情報がすぐに入ったことと遊ぶ教室がありますとお便りが届きました。途中から参加した私たちに、温かく声をかけてもらえたお陰で、安心して入園を迎えたことを覚えています。町外から来た私にとって町からの情報(お便り)は何よりも心強いものでした。聖籠町に暮らした4年目に、町の仕事にも関われる機会がありました。

議会選任の監査委員決る



須貝 龍夫さん

平成19年8月31日をもって任期満了となった、聖籠町監査委員 遠藤博さんの後任に、須貝龍夫さん(次第浜)の同意を求めた案件が町長より提案されました。

この同意については、無記名投票の結果、賛成8・反対2・白票1・無効1で同意されました。

質疑

町民に理解得られるか

小川益一郎議員 議会から選任される監査委員として須貝龍夫さんは適任であるのか。

須貝さんは副議長も経験し大変優秀な人であるが、今まで町長の後援会

の事務局員として、常に町長と行動を共にし、選挙運動や集会と一緒に動く人が渡邊町政の適正、公平な監査ができるのか、一般町民の理解は得られないと思う。

適正に対応する

町長 監査委員であることをわきまえて適正に対応したい。

固定資産評価審査委員を再任



駒田 文雄さん

平成19年12月31日をもって任期満了となる固定資産評価審査委員会委員

に、駒田文雄(ひばりが丘)さんを引き続き選任することに全会一致で同意することとしました。

駒田文雄さんは前任者の後任期間として、平成19年7月1日から、同委員に選任されておりました。

これまで、前助役として行政経験も豊かであり人格、識見とともに優秀であり、適正かつ公平な審査が期待されます。

第6回臨時議会

原油価格高騰に伴い要援護世帯に 一世帯あたり5000円の暖房費を助成

平成19年第6回臨時議会が、12月25日、1日間の日程で開催されました。

提出された議案は、平成19年度一般会計補正予算（第6号）で、既定の予算に205万円を追加し、歳入歳出それぞれ71億8040万円と定めるもので、審議の結果、原案どおり可決されました。

内容は、原油価格高騰に伴い、要援護世帯に一世帯あたり5000円の暖房費の助成を行うものです。

対象者の要援護世帯とは、生活保護世帯、障害者世帯、高齢者世帯、ひとり親世帯の町民税非課税世帯です。

みなさんの

請願・陳情

第4回定例会では、地域住民より直接の声となりまず請願3件、陳情4件が審査され、請願1件を継続審査、陳情1件を不採択とし、外5件はすべて全会一致で採択されました。

採択となった請願

- ◎平成20年度予算において、消費税の税率引き上げをおこなわないことをもとする請願（提出者 消費税廃止新潟県各界連絡会 代表 能登惣五郎）
- ◎米価の安定対策を求める請願（提出者 農民運動新潟県連合会 代表者 町田 擴）

継続審査となった請願

- ◎新テロ特措法案を撤回し、アフガニスタンへの民生支援の強化を求める請願（提出者 憲法を守る新潟県共同センター 代表 能登惣五郎外1人）

採択となった陳情

- ◎防災・生活関連整備の地域間格差を無くし、安全安心な公共事業を国の責任で実施することを求める要請書（提出者 国土交通省建設労働組合北陸地方本部 執行委員長 羽深 圭一）
- ◎保険でよい歯科医療の実現を求める意見書採択を求める陳情（提出者 新潟保険医会 歯科部長 浦田 治）
- ◎道路整備財源の制度堅持に関する意見書の採択について（提出者 新潟県道路整備協会 会長 本田 富雄）

不採択となった陳情

- ◎後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める陳情（提出者 新潟県社会福祉推進協議会 会長 坪谷 誠）

意見書5件を 可決し国に提出

第4回定例会で5件の意見書が提出され、すべて全会一致で可決されました。可決された意見書は、国の関係機関に提出し、実現するよう要請します。

◎平成20年度政府予算において、消費税の税率引き上げをおこなわないことをもとする意見書

◎米価の安定対策を求める意見書

◎防災・生活関連整備の地域間格差を無くし、安全安心な公共事業を国の責任で実施することを求める意見書

◎保険でよい歯科医療の実現を求める意見書

◎道路整備財源の制度堅持に関する意見書

8議員が質問

— 加藤正之 議員 (10ページ) —

1. 館長を置く理由は何か
2. 基金の積立は計画的か
3. 運営協議会の考え方は

— 五十嵐利栄 議員 (11ページ) —

1. 危機的農業をどうする
2. 人事考課制度の導入を

— 宮沢光子 議員 (12ページ) —

1. 検証しているか子育て支援
2. どうしている各事業の連携
3. 防災訓練の反省、評価は

— 田宮実 議員 (13ページ) —

1. 入場券が遅れた理由は
2. 投票率向上を
3. 企業育成の向上を

— 小林政榮 議員 (14ページ) —

1. 有機資源の積極活用を
2. どうする「こだわり農業」
3. 地産地消の拡大を

— 桜井怜 議員 (15ページ) —

1. 基礎学力の向上をはかる考えは

— 中村恵美子 議員 (16ページ) —

1. 無料妊婦健診を5回以上に
2. 入れ歯のリサイクルを
3. 後期高齢者医療制度の説明会を

— 小川益一郎 議員 (17ページ) —

1. 町の防犯、治安急げ
2. 町の農業はどうなる

ズバリ
直言

町政を問う

一般質問

館長を置く理由は何か

会社の答弁は控える



加藤 正之議員

問 経営状況の厳しい地場物産(株)に、経営の健全化と地産地消の拡大のため、町が100%出資し、建物を無償貸付した。

唯一の株主として町長は、地場物産(株)の経営をどのように考えているのか。地場物産は会社として利益を上げるため、少しでも収入を伸ばし、経費を削減しなくてはならないが、どうして新たに経費を掛けてまで館長を置くのか。

館長を置くことで、地場物産館がどのように変わるのか。今年度の決算見直しは計画通りか。

また、会社の定款では監査役の任期が3年になっているが、会社法では

4年に決まっている。違法でないか。
町長 町が出資しているものについては、議会に報告しなければならぬので、決算報告はしている。しかし、町が株主であっても、副町長が社長の会社であり、町長でも

人事権や経営内容にまで介入できない。
今年度の決算見直しは180万円程度の赤字見込みである。監査役の任期については確認し、間違っていれば措置を講ずる。



▲明るく、元気に登校

基金の積立は計画的か

気持ちは計画的に努力

とから、財政上の制度改正に耐え得るよう基金積立を計画的に推し進めるとした。

しかし、合併しないことを宣言した14年度末を基準にすると、18年度末の基金の残高合計は72%に減少している。とても計画的に積み立てられているとは言えない。

問 町長は平成14年に合併をしないと決断したこ

町長 下水道整備のために下水道会計に繰り出す額が大きく、基金の積立が出来なかった。しかし、気持ちの上では計画的に努力していきたい。今議会に財政調整基金の積立として9600万円の補正を上げている。

運営協議会の考え方は

当を得た内容

問 蓮野小学校のスクールバスについて、蓮野小学校運営協議会が協議し、教育委員会に意見を述べたが、その内容は。

用の終了は止むなし。通路の安全を確保していただきたい。子供料金で循環バス利用継続を可能に。地域住民への周知が必要。との意見があった。

教育長 循環バス無料利

危機的農業をどうする

国の動きをみながら

問 国が、戦後農政の最大改革とアドバルーンをあげてスタートした品目

横断的経営安定対策は、07年度産米の大幅下落で、農家に約束した「標準価格の90%補償」もその1/2程度の補償しかできない現状である。

こしひかりでみると標準価格2万290円に対し、現時点でのJAの仮渡金は1万2300円で、差額約8000円はあまりに大きく、このままの状況では農家はコスト割

れし、再生産できなくなる。まさに危機的状況である。

国は補正予算で対応策を検討しているが、90%補償ができなかった時、町として不足分を補てんする考えはあるか。

次に米価を左右する要因は需給バランスにある。米の消費拡大のため、「米消費拡大委員会」などを設置する考えはあるか。

見えない。町長は08年以降の農業政策について、

どう考えているか。
町長 国は緊急対策と、米政策を見直すことを検討している。また、国の価格補償と県の動きも未知数なので、これらの動きをみて、農業振興の観点から利子補給の考え方を含めて検討する。

米消費拡大については、地産地消推進協議会を立ち上げているので、その中で協議していく。
08年以降の農業政策は、付加価値化の推進、食育、地産地消への支援、観光直売の拡充、環境保全型農業の推進、担い手の育

成、基盤整備などを継続基本政策として推進していく。



五十嵐 利栄議員



▲めざせ米の消費拡大

人事考課制度の導入を

導入は避けられない

問 合併しない町づくりの中で、人員削減は避けられない。少数精鋭体制で行政運営をしていくためにも、人事考課制度をとり入れるべきでないか。
平成15年、17年の一般質問で町長は時期尚早と答弁しているが、現時点でどう考えるか。
町長 18年度から給与構造改革で、勤務成績に対応した昇給制度に対応する給与体系となった。当町でも評価制度を導入することは避けられない。評価結果をフィードバックし、職員の資質向上をはかりたい。

検証しているか子育て支援

毎年の各事業を分析している



宮沢 光子議員

問 平成17年3月、聖籠町次世代育成のための行動計画が策定された。5年間を一期として、18歳未満のすべての児童を対象としている。国としても、少子化対策に、さまざまな施策を講じているが、思うような結果は出ていない。全国の各自治体においても、さまざまな子育て支援が実施されている。今後、子育て世代の人たちは、各自治体の子育て支援を比較して、転入、転出を考えるのではないかと推察する。

町の行動計画も、17・18年度の2年間を終えた。当町の特色ある子育て支援や今後、検討を要する「ファミリーサポート

事業」、保育ママ制度などどう考えているか。

町長 平成22年度に、一括評価する体制を考えている。毎年の各事業については、それぞれの所管において、予算とともに評価と分析は当然している。

今後の施策については、子どもたちの保健、医療、福祉、教育など、町の問題、課題を診療所の医師などの見解を聞き検討する。「ファミリーサポート事業」については、今後の大事な施策のひとつであると認識している。

どうしている各事業の連携

保健福祉課との連携も大事

問 子育て支援は多岐にわたり、焦点を絞りきれないが、子どもも大人も当町で育つという観点から、教育委員会の力が問われる。

家庭教育講座など単発

的に行われているが、町の問題点を網羅するよ
うな各事業の連携をどう考えているか。

福祉と教育のバランスを正しく理解する保護者を啓発したい。

教育長 子育て支援に関しては、福祉と教育は非常に微妙な問題がある。



▲親子で楽しむ紙しばい会

防災訓練の反省、評価は 地域防災力の向上になった

問 10月14日、町として初めて、36集落ごとの「まちなか防災訓練」が行われた。訓練の反省としては、情報伝達の確認が十分だったと思われる。

今後の課題は、住民の防災意識の向上である。

町長 訓練後の調査の結果、訓練の定期的継続、地域防災力の強化など一定の評価を得た。しかし、防災無線受信体制の不備、訓練の周知が不十分などもあった。

入場券が遅れた理由は

周知徹底PR

問 今年8月にわが町の議員選挙が執行された。

公職選挙法が改正され告示期間中に、期日前投票ができるように改正され、多くの町民が活用している。

町議選は告示期間が5日間で、中4日間の期日前投票ができる。その投票にいく入場券が3日も遅れて郵送された。遅送配達の原因は何か。

選挙管理委員長 公職選

挙法に基づき、入場券なしでも投票はできる。また、郵便法に基づき郵便

は2、3日の配達期間であり、今後は検討を重ね、遅れでも行政無線等で広報し入場券なくとも投票ができるようPRしたい。



田宮 実議員

投票率向上を スペースがない

問 期日前投票について、有権者は仕事上の都合、

また、高齢者は付添いで行く人が多く活用している。高齢者や多くの有権者が投票に行きやすくするために投票所を一階に設置できないか。

選挙管理委員長 一階フロアの投票所について、

本庁舎の一階を見ても投票所として適切な場所がない。

また、選挙は秘密投票主義であり、隔離された場所がなく、エレベーター等を利用して二階で投票をお願いしている。



▲地元企業の育成を

企業育成 の向上を 今後の動向みて

問 一般競争入札の限度額について、泉田県知事は地域産業の活性化にと県発注工事の限度額を拡大して指名競争入札を公表している。また、下請

業者も県内企業を指定した。

当町は3000万円以上は、一般競争入札を行うとしている。この厳しい経済情勢下であり、当町も限度額を拡大して指名競争入札で地域経済の向上をはかれないか。

町長 町の財務規則では一般競争入札となつている。だが、適さないため選択として指名競争入札が多く行われている現状である。

8月10日付で聖籠町制限付き一般競争入札施行要領を策定し実施体制を整備した。原則的には3000万円以上の建設工事を基準としている。

まだ実績も出ていないから2年ぐらいは動向をみる。

有機資源の積極活用を

試験的に取り組んでいる



小林 政栄議員

問 たい肥センター生ごみの資源循環型農業にどう取り組むか。実質2年が経過している。

この間の実証試験の結果、検証地域に存在する有機資源の積極活用の意味においても、生ごみと畜産たい肥を有機的に一体化して利用していく必要があるのではないかと。

町長 モデル事業の有機肥料とたい肥と混合させながらブランド化する。

今試験的に取り組みをしている。特に生ごみ処理については、全町的に広げることも視野に入れて、循環型農業の推進に努力していきたい。



▲活かせ有機資源

どうする「こだわり農業」

さらに支援していく

問 町としての独自性があり、個性ある栽培計画の立案、農産物に付加価値をつけるような認証制度の制度システムの構築や整備を考えていくこと

も必要ではないか。

町長 品質のよいものではないかならない。

本町においても、環境保全型農業の推進、観光直売の拡充、付加価値化

地産地消の拡大を

話し合いが大事

問 地場野菜の学校給食での使用量増加はできないのか。

町の地産地消協議会が立ち上がったということであるが、現在の活動状況と今後の取り組みについて、どんな方向付けをするのか。

町長 町の地産地消推進協議会と個別的な議論も深めながら対応をはかっていきたい。

特に学校給食については、農家の皆さんと、互いに意見交換しながら、契約栽培のような供給対応等、方向性を模索していくことが大事かと思う。

の推進等支援している。当町のこだわり農業として、認知されていくうえで、重要性を持つていくと考えている。

基礎学力の向上をはかる考えは

短期学力向上対策事業で

問 こども園から中学校までを、一体と考えて学校教育を進めている。

基礎学力の向上については、どのような考えを持っているのか。

国では、小中学校のゆとり教育部分を部分修正し、今より必修教科の授業時間を、一割程度増す。また、応用面に力を入れた内容に変更する。

基礎学力がしっかりと

きていないと、授業についていけない子どもも考えられ、また、詰め込み教育授業、塾通いなどが考えられる。

わかる授業による、学習意欲の向上をはかるために、小中学校について、土曜日、夏休み、冬休み等を利用し、教員のOB、または、教員資格を持つ

た人達から協力してもらい、希望者による基礎学力の向上をはかる考えはないか。

町長 学習意欲を醸成させるために、どういう方法があるか、研究し、来年度に反映させるよう、予算の確保など、今指示をしている。

教員のOBや、学生などによる学習支援体制、いろんな方法論があると思う。

教育長 予算的な裏づけが可能になるので、現在短期学力向上対策事業を練っているところである。

各小中学校の先生方に、プランを示しヒアリングを行った。

家庭地域教育審議会で

も審議してもらった。また、PTAの代表にも、同様な意見をもらいながら、年明けに明確な形を示したい。

放課後、土曜日、長期休業日等をねらって、どうしてもその時期までに、わかってほしい知識、技能を子どもたちに身につけさせるような、授業を工夫したい。



桜井 怜議員



▲少年よ大志を抱け

無料妊婦健診を5回以上に

20年度から5回で検討



中村 恵美子議員

問 県内市町村では無料で受けられる妊婦健診の回数を5回以上としているのは、前年度の2自治体から17自治体と大幅に増えた。今年一月厚生労働省が自治体に対して健診の回数は14回が望ましく、公費負担も5回以上を原則に14回が望ましいとする通知を出したことがきっかけとなっている。聖籠町も現在の2回から5回以上と回数を増やすべきでないか。

町長 本町では近隣市町村で行っていない取り組みの妊産婦医療費助成制度を実施している。妊婦健診の公費負担は、平成20年度から5回に増やす予定で検討をしている。



▲大きく育て未来の宝

入れ歯のリサイクルを

現時点では時期尚早

問 入れ歯には、金具や歯の詰め物、かぶせ物には、金、銀、パラジウム合金が多く使われている。平均すると一つの入れ歯には5グラムの合金が含まれている。

入れ歯を回収して換金し、収益金を国連児童基金ユニセフに寄付しているのが、NPO法人日本入れ歯リサイクル協会である。収益金の45%をユニセフに、45%を協力自治体の社会福祉協議会に寄付し、10%は入れ歯リサイクル協会の活動経費としている。

後期高齢者医療制度の説明会を

連けいをはかりながら

問 後期高齢者医療制度について①低所得者の保険料軽減はどうか。②低所得者の減免制度を自治体から求めるべきだ。③健診で生活習慣病患者の撤廃を。④65歳以上の障害者は引き続き県**の対象とすべきだ。⑤老人クラブに説明会を。

町長 ①難しい。②やむを得ない時は規定にある。③被保険者の希望により可能。④維持できるような県に申し入れる。⑤老人クラブ等の説明会等、連けいをはかりながらやる。

本町でも実施に向けて検討したかどうか。
町長 入れ歯は保険適用と保険適用以外のものが

ある。保険適用のものは換金しても微々たるものである。現時点では時期尚早である。

※一口メモ※

県障 とは

重度心身障害者医療費助成のことで、利用できる人は、

- ① 療育手帳(A)の交付を受けている人
- ② 身体障害者手帳(1・2・3級)の交付を受けている人

- ③ ①②と同程度以上の障害を有し、知事の承認を受け、市町村長が認定した人

継続調査報告

生活安全・環境を調査

総務文教

11月7日、杉谷内集落地内の中古車業者の排水問題について、地元農家組合長から説明を受けながら現地調査を行った。当業者は地元農家組合など関係者の同意を得ないで用排水路に無断で生活排水を流している。また、当業者前にある町道を自社の駐車場として占有していた。

環境センターに指導の強化を働きかけると共に違法建築や町有財産の不法占拠の面からも対処していく必要がある。

2カ所目は加治川右岸の産廃業者を、次第浜区長・環境センターに同行してもらい、産業廃棄物処理の実態及び外国人の居住環境を調査した。
当事業所では昨年8月に起きた殺人事件の



被害者が住んでいたが、調査後の11月25日には強盗致傷事件が発生している。外国人同志の事件ではあるが、地元住民はもとより町民全体に不安を与えていることから早急な対策が求められる。

聖豊はすがた園など視察

厚生産業

11月9日、特別養護老人ホームながうらの郷、特別養護老人ホーム聖豊はすがた園及び平成19年9月議会で物件補償と用地購入費で3190万円が計上された、苔沼地区農道を調査した。

ながうらの郷は16年12月にオープンし、個室型老人ホーム90床、ショートステイ20床を中心に運営している。いずれも満床状態で、待機者は300人である。職員の定着が悪いことに苦慮しており、介護業界全体の悩みが、ここでもみられた。

聖豊はすがた園は、老人ホーム定員50人、デイサービス30人、ショートステイは現在定員10人だが、現在20床を増床中で12月20日頃事業開始予定。



いずれもほぼ満床状況で、待機者は聖籠町と旧豊栄を合わせて約350人（待機者は殆んどの人が複数登録）である。

苔沼農道は特に問題となる事象はなかった。

委員会閉会中の

議会の活性化に向けて

議会運営

平成19年8月26日執行の議会議員一般選挙が実施され、定数18人から14人となった。

平成の合併が続くなか、聖籠町は自分の間合併をしない町づくりを選んで自立の道を歩むこととした。

議会もこれに応える体制が必要である。3常任委員会を2常任委員会（総務文教・厚生産業）にし、今まで以上に広い視野と高い知見、全町にわたる行動力が求められている。議会はただ単に町執行者の追従機関でなく、厳しいチェックと町民の意とする提案型にならないなければならない。

12月議会は日曜議会を実施して4回目となる。

2日間の一般質問に

は60人が傍聴された。傍聴者に初めてアンケートを実施したが、大変貴重なご意見を頂戴している。

今後とも、議会は町民とともに在ることを忘れてはいけない。

「一般質問の一回一答方式の検討や議会提案など」これからも町民の意見を大切に議論を活発に展開したいものだ。

平成19年12月議会傍聴アンケート

- 入場者数（一般質問）

12月 9日（日曜日）	約50人（受付簿記載者37人）
10日（月曜日）	10人（" 9人）
2日間計	約60人（" 46人）
- 年代別（回答者）

<input type="checkbox"/> 50代	1人	<input type="checkbox"/> 60代	5人	<input type="checkbox"/> 70代	1人
------------------------------	----	------------------------------	----	------------------------------	----
- 今までに議会傍聴をされたことがありますか。

<input type="checkbox"/> ある	5人	<input type="checkbox"/> ない	2人
-----------------------------	----	-----------------------------	----
- 今回の日曜議会はどこで知りましたか。（複数回答あり）

<input type="checkbox"/> 新聞	2人	<input type="checkbox"/> 議会だより	5人
<input type="checkbox"/> 町の防災無線	2人	<input type="checkbox"/> 知人に誘われて	1人
- 今後も日曜議会を続けた方が良いですか。

<input type="checkbox"/> はい	6人	<input type="checkbox"/> いいえ	1人
-----------------------------	----	------------------------------	----

※日曜議会に感想等ありましたらお書きください。

〔はい〕

 - ・休日なので良い。
 - ・次年度も引き続き実施してほしい。
 - ・今年度はまあまあ傍聴者と思われた。 2人
 - ・12月でなく他の月では実施できないか。
 - ・休日なので参加しやすい。
 - ・空調の暖房利きすぎ。 3人
 - ・議会傍聴は生の声が聞ける。

〔いいえ〕

 - ・重要な議題（合併など）の時だけ。
- 今後、議会に望むことはなんですか。
 - ・一部議員の質問内容に疑問あり。
 - ・インターネットで議会内容を早急に発信してほしい。
 - ・議事録作成まで長すぎる。
 - ・町長の答弁に対する要望（具体的に、手短に分かりやすく。） 2人

日曜議会傍聴アンケート



▲白熱した議会を傍聴

お知らせ

町政を知るよい機会
議会を傍聴してみませんか
今、町ではどんなことが論議されているのだろうか。また、どんな計画があってどう進んでいるのだろうか。

あなたに身近なことかも知れません。

だれでも傍聴できますので、ぜひ一度おいでください。

おいでになれなかったときでも、町図書館と保健センターに会議録が置いてありますので、どうぞご覧ください。

次回定例会は、3月上旬の予定です。



お願い

あなたもみんなのページ
聖籠町に嫁いで来た
お嫁さんに出てみませんか！

もし、私もと思っている方はご連絡下さい。

対象者は町外から嫁いで来たお嫁さんです。

(連絡先)

町役場議会事務局

☎0254-27-1967 (直通)

議会広報対策 特別委員会

議長	高松 春雄
委員長	宮沢 光子
副委員長	高松 守雄
委員	小川益一郎
	中村恵美子
	田村富美男
	小林 政榮

みんなのページ

聖籠町に嫁いで来た お嫁さん



高松 久美さん
(亀塚)

Q どんなきっかけで彼と知り合いましたか？

友達と飲みに行ったお店で彼も友達と来ていました。

それから少しずつ仲良くなり付き合いはじめ、結婚しました。

今は家族も一人増えて毎日大変ですが、彼もすすんで手伝ってくれているので、とても助かります。

Q 聖籠町に嫁いで来て どんなイメージを持ちましたか？

聖籠町は自然がたくさんあって、とても住みやすいと思いました。

また、妊婦さんや赤ちゃんに対しての助成がすごくしっかりしているので、妊娠から出産、子育てまで安心してできます。

Q 町での生活はどうですか？

まだ聖籠町に来て間もないので、分からないことも多いですが、家族のみんながとっても優しくておもしろいので、毎日笑いがたえません。

10月に男の子が生まれたので、これからの色々なイベントが楽しみです。

Q 町に望むことはありますか？

これからも町民一人ひとりが安心して暮らせる町にしてほしいです。

聖籠町に嫁いで来たお嫁さん、今回は新潟市出身で平成19年3月に亀塚に嫁いで来た高松 久美(旧姓 上野)さんです。皆さんよろしくお願います。

明けて、おめでとうござい
す。
昨年は、町制施行三十年を迎え住民参加の「自立」を誓う中で、町議会議員一般選挙が行われました。
新しい議会構成もスタートし、議会広報も新しい委員の手で編集されていますが、町民にとって町政が身近になるための議会だよりの果たす役割は非常に大きいと思います。
そんな大切な役目を一年生議員の私を議会広報対策特別委員会副委員長に指名するということは、議員の立場ではなくもっと町民の目線での広報づくりを望むということだと思っています。
新しい年が皆さんにとっても素晴らしい一年でありますように、また、議会広報を一人でも多くの町民の皆さんに読んで頂けるよう、先輩広報委員の方々と一丸となり頑張りますので宜しくお願い致します。

議会広報対策特別委員会
副委員長 高松 守雄

編集後記